

# R7共同事業型 三津湾の特性を生かしたカキ養殖の効率化・高付加価値化



**1 課題** 近年、貧栄養化による餌不足や夏季の水温上昇などの影響により、瀬戸内海全体で養殖牡蠣の生産量が減少している。さらに、天然資源に依存している種苗が確保できない年が頻発している。

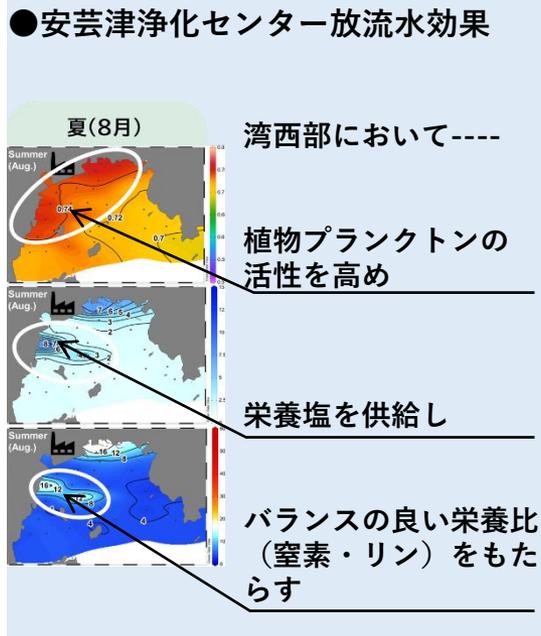
**2 概要** 貧栄養化・餌不足の影響は、特に東広島市の三津湾で深刻だとされる。その対策として下水処理緩和運転が求められており、その影響範囲と効果を予測する。同時に、三津湾が「清浄海域」であるという特長を損なわない対策として、海底水揚水装置の活用を検討する。海底水揚水装置の水温モニタリング機能を活用し、三津湾での効率的な天然採苗産業にも活用する

大学 **小池 一彦**  
広島大学  
大学院統合生命科学研究科  
生物資源科学プログラム 教授



市担当課 ×  
**産業部**  
**農林水産課**

関係機関 ×  
**安芸津漁業協同組合**  
**早田原漁業協同組合**  
**古川精機株式会社**



## 3 到達目標・方法

- (1)令和7年度も引き続き浄化センター放流水の効果を検証
- (2)水温低下効果・牡蠣肥育効果を高める揚水装置の改良、効果検証
- (3)揚水装置ICT機能を用いた本格的な天然採苗にもトライ

三津湾産の牡蠣増産とブランド化を達成